

海外安全対策情報（2024 年 1 月～3 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）全般

ペトロ大統領がＳＮＳにて発表した 2024 年第一四半期の犯罪統計（速報値）によれば、殺人事件は前年同期対約 3 % 減少し、恐喝事件は前年同期比で約 7 % 増加した。強盗や窃盗は減少傾向にあるとされているが、在留邦人の利用も予想されるボゴタ市内北部のレストランやカフェには、機関銃などを携行した犯人による大規模な強盗事件も散発している。さらに、ＳＮＳを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取るような手口の犯罪も引き続き発生している。

さらにメデジン市では、前述のとおりＳＮＳや出会い系アプリを通じて知り合った異性から、気づかないうちに睡眠薬で眠らされ金品を盗まれる外国人や、違法薬物を過剰摂取して死亡する外国人が増加しているため、行動に十分に注意する必要がある。

このような被害に遭わないために、人気のない道路は日中でも避ける、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）、飲食店で出会った人物やアプリで知り合った人物を安易に信用しない等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

ペトロ大統領の呼びかけにより、いくつかのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃は引き続き発生していることから、かかる場所に不用意に近づかないことが大切である。また、最近、恐喝事件に絡み、金銭の要求に応じない被害者を脅すため爆発物を投てきする等の行為も見られる。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では 2017 年 6 月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む 3 名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019 年 1 月、市内の警察学校内で学生 22 名が死亡する E L N による自動車爆弾が発生しているほか、上述の 2022 年 3 月 26 日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（C A I）の爆弾テロにおいて、付近にいた児童 2 名が死亡、勤務中の警察官 1 名を含む 25 名が負傷、交番付近の家屋等約 50 戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2024年

- ・ 1月10日 ボゴタ市南部の住宅街で手榴弾が投てきされ、付近の家屋9棟に物的被害が発生。
- ・ 1月12日 ノルテ・デ・サントンドール県ククタ市の繁華街で爆発物が投てきされ、付近にいた住民2名が負傷。
- ・ 2月27日 ウイラ県ネイバ市で、自動車販売店に投てきされた爆発物が跳ね返り、近隣の建物に物的被害が発生。
- ・ 3月12日 ウイラ県カンポアレグレ市で、ガソリンスタンドに爆発物が投てきされたが爆発せず、当局が処理。
- ・ 3月22日 ウイラ県ネイバ市で、バイク販売店に手榴弾が投てきされ、バイク販売店及び近隣の銀行などに物的被害が発生。
- ・ 3月25日 ウイラ県アルヘシラス市で、カジノに爆発物が投てきされ物的被害が発生。
- ・ 3月26日 カクタ県カルタヘナ・デル・チャイラ市で、移動中の陸軍が爆発物による攻撃を受けた。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

前述のとおり、2024年第一四半期は、恐喝・脅迫事件が前年同期比約7%増加している。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、知らない者からのコンタクトには慎重に対応することや、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。

都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。